

3.3 寛文四年（1664）の女鳥羽川氾濫と大村地区の移転

表 3.1 と図 3.5 に示したように寛文四年八月（1664.9）に女鳥羽川左岸の大村で大洪水がありました（図 3.5 の③地区）。水汲村の金井堰の通水が不能となり、浅間塔の入沢の水を利用したようです。大村の西部一帯が大洪水で流出しました。この地区には、写真 3.1 に示した清水井戸（大村共同井戸）があります。

写真 3.2 に示した説明看板によると、

「貞享三年十一月（1686.12）の古文書によれば、寛文五年（1665）大村の集落は（前年の）大洪水で、西側一帯が荒地となったので、水田地帯から西側に移転した。この井戸は移住前の共同井戸で、道の南側の田より現在地に移した。

平成 9 年（1997）11 月

本郷地区景観整備委員会」

と記されています。

松本市（1994）『松本市史 第四巻旧市町村編 IV』の第五章 本郷 おもな出来事をもとに当時の本郷村を整理すると、

万治二年七月（1659.8）、女鳥羽川氾濫し、原村・水汲村の段丘下の田畑が流出した。

水野忠職が水汲細工所を浅間街道添いにつくり、浅間御殿を改修した。

寛文四年八月夏（1664.9）、大洪水となり、大村の西部一帯が流出した。水汲村の金井堰が破壊され、通水不能となった。浅間の塔の入沢（山田沢、図 3.7、3.9 参照）から水を引いた。

寛文五年十月（1665.11）、被災した大村地区は西側の地区に集団移転した。

寛文九年六月（1669.7）、松本藩主水野忠直、清光寺に廟を築き、寺を改築して玄向寺と改めた。

本郷村誌編纂会（1983）『本郷村誌』の第 4 章



写真 3.1 旧本郷村大村地区の清水井戸
2025 年撮影



写真 3.2 清水井戸（大村共同井戸）の説明看板
2025 年撮影

近世、第五節 災害と騒動 によれば、寛文四年八月（1664.9）、女鳥羽川大洪水となり、浅間橋下で東へ切れて、水汲村分の金井堰が破壊され、大村西部一帯は大洪水のため、土石が多く流入した。そのため、大村では水田地帯の中にあつた屋敷を、村をあげて西方畑地に移動させ、旧屋敷地を開田した。田畑の移動によって、再検地が行われた。

寛文五年（1665）に西側に集団移転が行われて、寛文五年十一月に大村の検地が行われたようです。

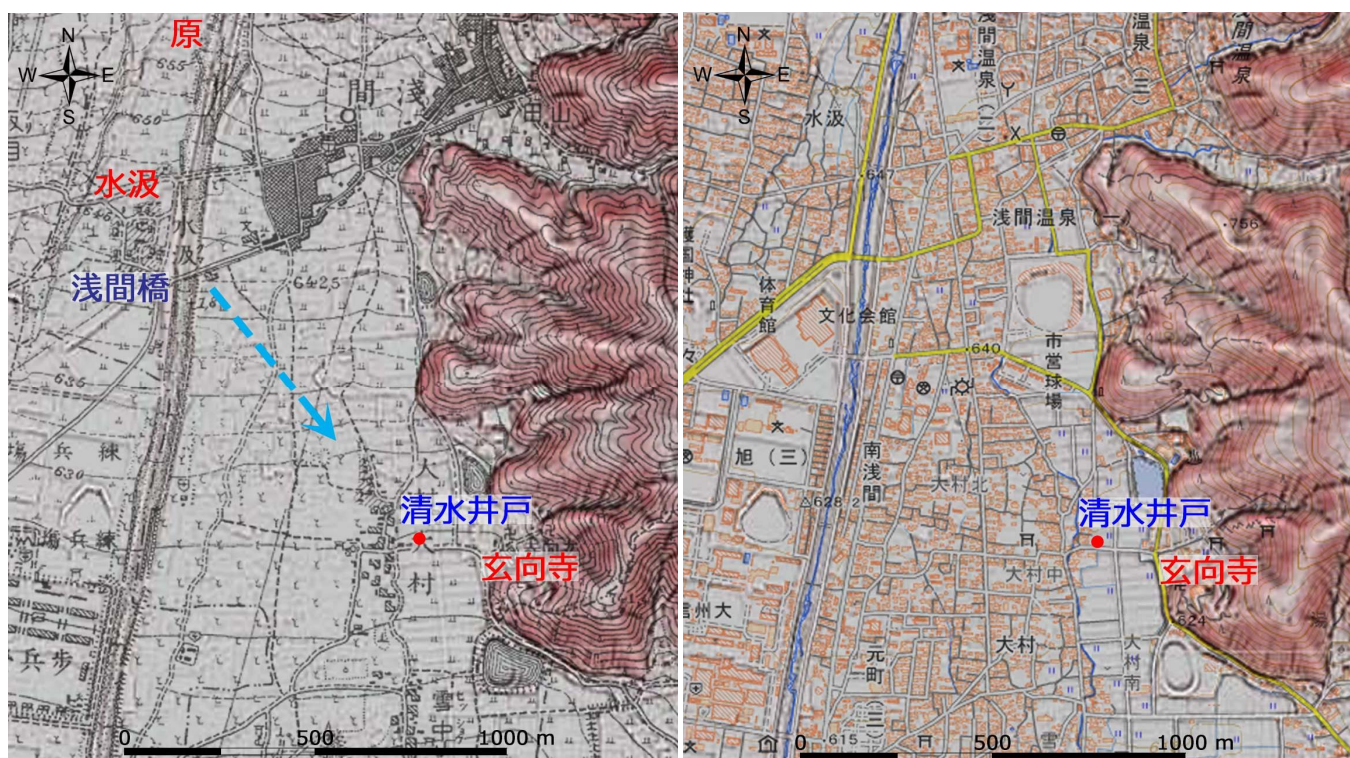


図 3.6 左図：旧版地形図 (1/25,000, 「松本」「豊科」明治 43 年 (1910) 測図)
右図：地理院地図「標準地図」, 国土地理院基盤地図情報をもとに編集

図 3.6 は、明治 43 年 (1910) 測図の 1/2.5 万旧版地形図「松本」「豊科」図幅で、女鳥羽川の水汲から氾濫して左岸側を洪水が流下した範囲を示しています。図の中央部に大村の清水井戸があり、東側の山裾に玄向寺があります。清水井戸付近は南北に水田地帯が続いており、西側に南北に大村の集落があります。この集落と女鳥羽川との間は自然堤防地帯で桑畑が広がっており、養蚕が盛んだったことがわかります。右図は現在の地理院地図です。桑畑の部分はほとんど市街地になっています。

宮下 (1988) によれば、玄向寺の歴史は古く、寛永二年 (1625) 西營向順和尚が現在地の大村に寺を移して、「清光寺」と改めました。二代目の水野忠職公が寛文八年 (1668) に 58 歳で没した翌年、長男の忠直公は女鳥羽山麓に廟所を造り、「道樹院上昌山玄向寺」と致しました。

寛文四年 (1664) の女鳥羽川の氾濫と大村地区の移住も玄向寺から良く見えたと思われます。



写真 3.3 玄向寺の仁王門と寺標 (宮下, 1988)



写真 3.4 松本城主水野公の廟所 (宮下, 1988)